

「伝統武術・スポーツのグローバル化連続講演会」
2021年度第2回講演会

アメリカの 人種とスポーツ

—南部におけるBlack Lives Matterと記念碑—



2021年 7月26日[月] 5限(16:20~17:50) ●Zoom開催



2020年7月、南部連合の首都があったバージニア州リッチモンドでは、南北戦争の将軍ストーンウォール・ジャクソンの像が市民の手によって引き倒された。この事件を手始めに、J.E.B.スチュワートやジェファーソン・デイヴィスなど、100年に亘って町の象徴であり続けた南軍の英雄像が姿を消した。

その一方で、テニスの四大大会を制し、引退後は人種間の平等に尽くしたリッチモンド生まれの黒人プレイヤー、アーサー・アッシュの像も白人至上主義者の標的となった。なぜ、歴史上の人物をかたどったに過ぎない彫像が人種問題の争点となったのだろうか。Black Lives Matterのうねりの中で、どのように南部で生きる人びとが記念碑と向き合ったのかを報告する。



のりまつぐる

講師：乗松優(京都大学東南アジア地域研究研究所連携准教授)

京都大学東南アジア地域研究研究所連携准教授。アメリカ滞在時は、ポートランド州立大学歴史学部客員研究員として、歴史研究に従事。戦前の水泳日本代表とアメリカの対日観を研究する傍ら、バージニア州リッチモンドやオレゴン州ポートランドで反人種差別運動、Black Lives Matterの調査に携わる。

企画・担当：坂巻静佳、孫暁剛、冨澤かな、奈倉京子 問い合わせ先：奈倉京子 (nagura@u-shizuoka-ken.ac.jp)

*本講演会は2021年度静岡県立大学国際関係学部・学部研究推進費の助成による。